

旭川電気軌道 エコ、軽油高騰で対策

BDFバス試験運行

旭川電気軌道は食用廃油を再利用したバイオディーゼル燃料(BDF)を使ったバス一台を試験的に運行している。一カ月間の運行で従来の軽油とコスト面で変わらないことが分かり、BDF使用のバスを増やすため、利用客から原料の食用廃油を提供してもらえないか検討を始めた。(猫島一人)



バイオディーゼル燃料を使った旭川電気軌道の路線バス。1カ月の運行で燃料代はこれまでの軽油と変わらないことが分かった

燃料代は変らず 台数増へ廃油回収検討

環境への配慮と軽油価格の高騰が理由。八月から定員七十人の大型バスの燃料全量を市内の製造業者から購入したBDFに切り替えた。JR旭川駅と旭山動物園を結ぶ区間を日

飲食店チェーンのアレフ(札幌)は一日から、ハンバーケレストランの「びっくりドンキー」など旭川市内で運営する四店舗に、廃油を回収するポリタンクを設置した。市が進めるリサイクル事業に協力する。

同社は二〇〇六年から、札幌や恵庭など道央圏三十二店で廃油を収集。バイオディーゼル燃料(BDF)を精製し、自社農場のトラクター燃料などに利用している。旭川は道央「旭友ストア」六店とカソリンスストア三十四店の計四十カ所で

廃油を回収している。市は市内のスーパーストアにポリタンクを置いてもらうように協力を呼びかけているが、床の汚れや特有のにおいを敬遠し、協力店舗数が増えない。飲食店にも回収拠点が増えていくと、市環境部は「廃油の回収量が増えるきっかけになれば」と期待している。(五十嵐知彦)

廃油回収 アレフ、市内4店で タンク設置 市の事業に協力

二、三往復し、一カ月間で約二千二百キロ走行した。軽油と比較すると燃費は一割程度劣るものの価格は安い「かかった費用はほぼ同じだった」という。走行性能の違いも運転手の聞き取りでは、ほとんど感じられなかった。BDFへの切り替えには特別な装置など必要はなく、同社は今後台数を増やしたい考え。このため、てんぷら油などの食用廃油をバスの利用客から広く回収できないか検討を進めている。「各営業所だけでなく、バスに回収ボックスのようなものを作れないか考えたい」という。BDFを使ったバスは道内ではほかに、帯広市や十勝管内音更町のバス会社でも運行している。